

## 第13回鶴屋南北戯曲賞決定

第13回鶴屋南北戯曲賞の受賞作が決定しました。[主催] 光文シエラザード文化財団[協力] 日本劇作家協会2009年を対象とする第13回南北賞は、2009年12月17日の第1次審査でノミネートされた、4人5作品を対象に2010年1月19日に最終選考委員会を開催。下記の作品が選出されました。 「神戸・北ホテル」 小幡欣治 南北賞の正賞はブロンズ像、副賞が賞金200万円。 選考委員は現役の演劇記者。第13回は、 山口宏子（朝日新聞）、竹島勇（東京新聞）、内田洋一（日経新聞） 大島幸久（報知新聞）、高橋豊（毎日新聞）、杉山弘（読売新聞） の各氏でした。 第1次審査でノミネートされたのは、次の4人5作品。 「関数ドミノ」「奇ッ怪」 前川知大 「大人の時間」 鐘下辰男 「神戸・北ホテル」 小幡欣治 「マレーヒルの幻影」 岩松了 贈呈式は2010年3月16日に、第13回日本ミステリー文学大賞、第13回日本ミステリー文学大賞新人賞と同時に行なわれます。鶴屋南北戯曲賞とは平成8年7月に光文社創立50周年を記念して発足した、財団法人「光文シエラザード文化財団」は、財団活動の一環として日本演劇界の活性化を目指し、日本劇作家協会の協力を得て、鶴屋南北戯曲賞（通称南北賞と呼称）を設定した。戯曲に与えられる賞のうち、従来の岸田賞が文学の世界でいえば芥川賞的性格を持つのに対して、斬新な発想と大胆な筋書きによって、当時の江戸庶民に人気を博した4世鶴屋南北の名を冠した南北賞は、直木賞的性格を持つとあってよいだろう。南北賞は年間最優秀戯曲賞というべきもので、次の条件を満たす作品の中から選ばれます。 1. その年の1月～12月に日本国内で上演された戯曲であること 2. 日本語で書かれた新作戯曲であること（作者の国籍は問わない）これまでの受賞作など光文シエラザード文化財団